

## 第37回浄法寺漆共進会について

### 1 はじめに

二戸地域は漆の産地として全国に名高く、国産漆の7割を占める生産量のみならず、その品質についても極めて高い評価を得ており、名実ともに「日本一の漆の産地」です。

浄法寺漆は、これまでも平泉の中尊寺金色堂や、日光の二社一寺、京都の金閣寺など、国宝級の文化財の修理・修復に、必要不可欠な素材として重要な役割を果たしていますが、今年2月には文化庁から「重要文化財等の修復に原則として国産漆を使用する」とされ、将来にわたる漆の生産供給に、これまで以上に期待が高まっています。

### 2 浄法寺漆共進会

共進会（二戸市、岩手県浄法寺漆生産組合主催）は、10月17日（土）に二戸市の浄法寺総合支所で行われました。審査は、「初辺」「盛辺」「末辺」の3部門で行われ、主催者から委嘱された高橋勇介氏（デザインツール代表）、及川守男氏（及川漆工房代表）、町田俊一氏（町田俊一漆芸研究所代表）の3氏により、樽に入れ出品された漆について、色・粘度・乾燥の状態・底カスの状態の4項目で実施しました。



### 3 審査講評

審査員からは、「今年は、6月～8月中旬まで

雨不足、8月中旬以降は雨続きで、漆の品質低下が心配されましたが、職人の漆掻き技術が高まってきており、共進会初期の頃は、初辺・盛辺・末辺の違いが明確だったものが、今では見分けが付きにくいくらい品質も上がっています。今年は、8月まで雨が少なかったせいも、色が濃いものが目立ちました。」との講評がありました。

### 4 表彰式

表彰式は、二戸市の浄法寺総合支所で行われ、各部門の金賞は、「初辺の部」は二戸市の泉山義夫さん、「盛辺の部」は二戸市の内田廣榮さん、「末辺の部」は二戸市の大森清太郎さんが、それぞれ受賞しました。



### 5 今後の取組

今年度の県浄法寺漆生産組合の生産目標は1トでしたが、高温・少雨の影響などにより約780kgにとどまりました。今年は、出荷量確保のためシーズン最終盤に採取する「裏目漆」も出荷する予定です。

漆については、様々な課題が山積していますが、県としては、二戸市と連携して漆林の適切な保育管理指導や、新たな原木林の造成等について支援をしていくこととしています。